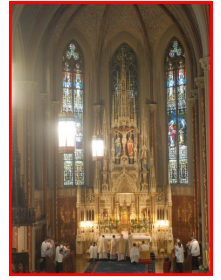




セントルイスからのたより

2014年 1月



お元気ですか？時は過ぎてゆきます。今年もまもなく2月です。今年の米国の気候は非常に寒さの厳しい冬です。先日、熱心に教会のミサにあずかっていた信者さんが突然亡くなり、死者の為の荘厳ミサを捧げました。まだ50歳台の方で、非常に前向きで物事をはっきりさせる方でした。車を運転中に気分が悪くなり、車を脇に寄せて、そのまま気を失われ、その後、結局意識を回復することなく天国に旅立たれました。3ヶ月前にその方の母の臨終の床に呼ばれて終油の秘蹟を授けたばかりで、その時は非常に元気そうだったので、彼女が心臓発作で倒れたと聞いたときは本当に驚きました。死を前にして、人々はその信仰を明らかにします。彼女が病院にいる間、一度も意識が回復しませんでした。実に多くの方が彼女のために祈るために訪れました。何百人にも上ったことでしょう。洗礼式するとき、司祭は信仰の果実として、なにを求めますかと聞きます。それに答えて代父母は永遠の命と答えます。

日本では良く、西洋の死生観、キリスト教の死生観といいますが、人間が体の死後も生き続けるというのは、現実であるということ、死と生の狭間に居る信者さんを通して学びました。カトリック教会の教えはこのように言っています。“キリストを信じる者は、その模範に従って、自らの死をこのように御父に対する従順と愛への行為へと変容させることができます。次の言葉は真実です。わたしたちは、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。(11テモテ2・11)”永遠の命にあずかるのは単なる信条ではなく、確固とした現実です。確かに生き生きとした信仰を神が私達に与えてくださいますように。



ラファエル植田勝行神父の米国での住所

St. Francis de Sales Oratory

2653 Ohio Avenue

Saint Louis, Missouri 63118

王たる宣教会のホームページ<<http://icrsp-jp.org>>

Email: sfds@institute-christ-king.org